

Nikkei Shimbun
7 de maio de 2014

Exposição de Nishikigoi

Nos dias 3 e 4 de maio, no Parque da Água Branca, aconteceu a 33ª Exposição de Nishikigoi do Brasil.

Mais de 30.000 pessoas prestigiaram o evento.

Mais de 20 criadores de carpas coloridas expuseram ao todo, cerca de 300 peixes.

O Deputado Federal Junji Abe participou da festa, fez o seu discurso e parabenizou o evento.

錦鯉品評会

非日系ミケレさんが連覇

“泳ぐ親善大使”に期待の声

ブラジル錦鯉愛好会(全日本愛鱗会ブラジル支部、尾西ロニー会長)が3、4の両日、聖市のアグアブランカ公園で「第33回ブラジル錦鯉展示品評会」を行った。

週末の賑わいと晴天にも恵まれ、3万人以上が来場した(主催者発表)。

20を越える生産者が約300匹を出品し、ミケレ・セミナトーレさん(42)の大理石色が2年連続の総合優勝に輝いた。

初日であった表彰式で、ミケレさんは本紙の取材に対し「数よりも質を追求している。昔は200匹ほどを飼っていたが、今は35トンの池に12匹だけ。少数精鋭で世話をしていることが勝因」と語った。

在聖領事館の飯田茂領事部長は、「2000年前突然変異で生まれた錦鯉。泳ぐ親善大使として、世界中からより愛されることを願う」とあいさつ。

文協農業関連交流委員会の桂川富夫委員長、安部順二連邦下議、伯農水産省の関係者も出席し、祝辞を述べた。

全日本愛鱗会元公認審査員の大町之夫さん(66、埼玉)も審査員として6回目の来伯を果たし、総合優勝に輝いた錦鯉に対し「黒墨の斑点模様につやがあり、柄の配置が素晴らしい。日本の品評会でも上位に食い込む見事な鯉」と褒め称え、「25年前に比べ、

質の向上を目の当たりにして嬉しい」と話した。また「優勝する錦鯉の育て方」などをテーマに講演した生産者のマルセロ・アサノさん(51、二世)は、「父親の影響もあって鯉に興味を持ち始めた。さらなる普及に貢献できた」と喜んだ。

尾西会長は「エサや飼育用品、稚魚を買う人も多く、この賑わいを嬉しく思う。もっと広めるために継続していきたい」と

表彰式で笑顔を見せる(右から)尾西会長、ミケレさん、息子のペドロくん、大町さん

と継続を誓った。



表彰式で笑顔を見せる(右から)尾西会長、ミケレさん、息子のペドロくん、大町さん

と継続を誓った。